

# 特集 本郷・ふじみ野「キャリア」特集

本学では、入学当初から新入生に対して徹底した「初年次教育」により、授業のモチベーションを高め、快適で主体的なキャンパスライフを送れるように様々な取り組みが行われています。さらに「キャリア教育」へと引き継がれ、学生が自分分析を繰り返しながら未来の夢を育て、自立した人間として社会貢献できる人材を育てるべく、学生キャリア推進の企画・推進にあたるキャリア戦略会議を中心に教職員が一丸となってハッパアップしています。

今回は大企業が誇るキャリア教育にスポットを当て、次の方々に話を伺いました。担当教職員による具体的な話に加え、厳しい就職戦線を突破した4年生の企業内定者4人による体験談は、在学生への大きなアドバイスになることでしょう。

## 両キャンパスで「キャリア」を「つべんぷらう」

— 文京学院のキャリア指導は、「きめ細か」で定評があります。キャリア戦略会議委員長としての思いをお聞かせください。



西村 現在は就職氷河期ですが、学生の皆さんにとっては非常に辛い時期かもしれません。入学時、行きたい業種、やりたい職種が有るに判るわけではありませぬ。それを進めるために本学では支援しますが、大事なことは就職し依存ではなく、学生が自分の足で歩き、自分の目企業を見ることです。本学の強みは、例えば航空業界の場合、生協のつながり情報を入れて、実際に現場へ行く機会があることです。就活活動は、能動的な就活。就職活動ができるよう、沢山の情報や事業準備して側面支援をしています。そのひとつとして、今年から9年生対象に就活の基本を学ぶ「キャリアササゼ」を始めました。一方通行の講義ではなく、グループワーク型で職種・業種などを学ぶのですが、かなりの学生が参加しています。

## 外部事業も有効活用

— 外部事業の活用もありませんか？

山田 僕はキャリアセンターからの勧めで、六木のジョブセンター(若者向けハローワーク)にも行きました。

舟木 そこには、他大学の学生や本学の教職員以外社会人もいますので社会性が身につきます。外部の事業にも参加することができます。自分で選んで考えて動いていくためにも良い場所です。キャリアセンターに頼れば良いのではなく、情報を有効活用して多くの場所へ出入りしてほしいと思います。

## グローバル社会で働くために語学を習得

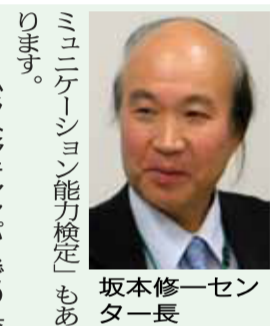
西村 本学のインターンシップも大変盛んで、国内共に多くの学生が参加しますが、皆さんはいかがですか？

戸辺 大学からの紹介ではなく、自分でどうして調べてみたい企業に社に受け入れていただきました。そこではグループワーク形式の作業があり、国大や有名大学出身であっても、それが不得意な学生がいることを3年生の夏の時点で判り、とも気が楽になりました(笑)。

菅原 私は留学を選びました。オーストラリアに半年、中国に2回、それぞれ1ヶ月ずつ行きました。特に中国では、色々な大学や商社から派遣されているビジネス



和気あいあいの「キャリアササゼ」風景



— ふじみ野キャンパスでの具体的なキャリア教育は？

舟木 3年生では「グループディスカッション」講座を年間20回開いていますが、生涯学習資格を持つ地域シブサポーターの指導で、協力いただいています。また、営業研究会や日本経済新聞社の協力による「新聞の読み方講座」、面接のノウハウを集中して学ぶ「二日面接講座」、先輩の話を聴く「シヨカエ」など

## キャリアセンター訪問は道を拓く「第一歩」



— 学生の皆さんはどのようにキャリアセンターを活用しましたか？

戸辺 僕はキャリアセンターに頼り切ることにはしませんでした。面接のノウハウを集中的に学んでからセンターの職員の方と話し、気持ちをほぐしていただきました。僕自身は資格講座を取りませんでした。アルバイト、ボランティア、インターンシップを履修していき、キャリアセンターに行ったら、沢山の情報をいただきました。旅行業務取扱管理者講座を取りました。企業の筆記試験時に役立ちました。

菅原 大企業には教員がエンタリします。中小企業にも目を向けなければいけないと思います。キャリアセンターに行ったら、沢山の情報をいただきました。旅行業務取扱管理者講座を取りました。企業の筆記試験時に役立ちました。

山田 何をどうすれば良いのが判らず、履歴書を持って10月に初めて行きました。セミナーの活動が忙しく、絶対手を抜かなくなつたので、エンタリも会社訪問も10社程度に絞って就活をしました。

石田 私は履歴書の志望動機を自分で書いたのですが、納得しませんでした。キャリアセンターを訪ねました。エンタリは沢山すれば良いと言われていますが、自分でもチャコチャになりませんでした。絞り込みました。会社訪問も1日1社と決め、ゆとりを持って就活をしました。

— どのような事業に参加しましたか？

山田 僕は「営業研究会」に入りました。3年の10月頃は自分分首席で卒業することを目標に勉強していましたが、とにかく楽しかったです。文京学院に入れたことが、自分の人生の転機であったと思います。

菅原 毎日大学に来るだけでは駄目だと感じて、ストーリー性のある大学生活を送ろうと考えました。まず3年生で英語を習得するために留学し、3年生でも1ヶ国語マスターすることを考え、「語学習得」を目標に大学生生活を送りました。文京学院の留学プログラムはどれも豊富で充実しています。卒業を遅らせる必要もありません。奨学金や語学検定取得の際の報奨金もいただけるので、帰国後も頑張って勉強できます。

— 後輩にアドバイスをお願いします。

山田 自分で考えて自分で行動すること。一番シンプルで効果的だと思っています。僕は中井さん、現場での体験を沢山させていただきました。後輩たちにも「外で積む経験は大切と伝えたいです。情報や先入観に惑わされず、自分の考えで一歩前に出てみると、何でも面白いと思います。

石田 同じ学科で近き人と就活について話し合ってください。就職について話し合ってください。自分でも自分で調べていかなければ何も始まらないという思いからです。キャリアセンターは、きっかけ作りや側面支援をたくさんしてくれるところであり、本質と結論を追求することは、学生としてどのくらい話しかけました。知恵かなと思います。

— 学生にメッセージをお願いします。

菅原 「キャリアササゼ」は、6限の出席しにくい時間帯です。単位にもなりませんから出席も取りません。でも、学生自身が楽しいと思えば目的に参加してくれます。皆でワイワイと楽しみながら気づきを与えていくことをコンセプトとしています。



— 大学の4年間で打ち込んだものは何ですか？

戸辺 まずは「自分が変わらなければいけない」と考えて、とにかく勉強に打ち込みました。2年生で格段に成績が上がりました。前の自分を変えるため、今は「キャリアササゼ」の期待を自由に出してもらい、学生の希望を酌んで内容を決めていきます。学生主体の運営ですから、ぜひ足を運んでください。



石田琴絵さん

— 就職は目標ではなく、結果つまり自分の学生生活の結果です。大学には沢山のチャンスがありますから、それを掴み「オンライン」で「ストーリー性」のある大学生活を送った学生のことです。

西村 就職は目標ではなく、結果つまり自分の学生生活の結果です。大学には沢山のチャンスがありますから、それを掴み「オンライン」で「ストーリー性」のある大学生活を送った学生のことです。

— 就職は目標ではなく、結果つまり自分の学生生活の結果です。大学には沢山のチャンスがありますから、それを掴み「オンライン」で「ストーリー性」のある大学生活を送った学生のことです。

— 就職は目標ではなく、結果つまり自分の学生生活の結果です。大学には沢山のチャンスがありますから、それを掴み「オンライン」で「ストーリー性」のある大学生活を送った学生のことです。

— 就職は目標ではなく、結果つまり自分の学生生活の結果です。大学には沢山のチャンスがありますから、それを掴み「オンライン」で「ストーリー性」のある大学生活を送った学生のことです。

— 就職は目標ではなく、結果つまり自分の学生生活の結果です。大学には沢山のチャンスがありますから、それを掴み「オンライン」で「ストーリー性」のある大学生活を送った学生のことです。

— 就職は目標ではなく、結果つまり自分の学生生活の結果です。大学には沢山のチャンスがありますから、それを掴み「オンライン」で「ストーリー性」のある大学生活を送った学生のことです。

— 就職は目標ではなく、結果つまり自分の学生生活の結果です。大学には沢山のチャンスがありますから、それを掴み「オンライン」で「ストーリー性」のある大学生活を送った学生のことです。

— 就職は目標ではなく、結果つまり自分の学生生活の結果です。大学には沢山のチャンスがありますから、それを掴み「オンライン」で「ストーリー性」のある大学生活を送った学生のことです。